

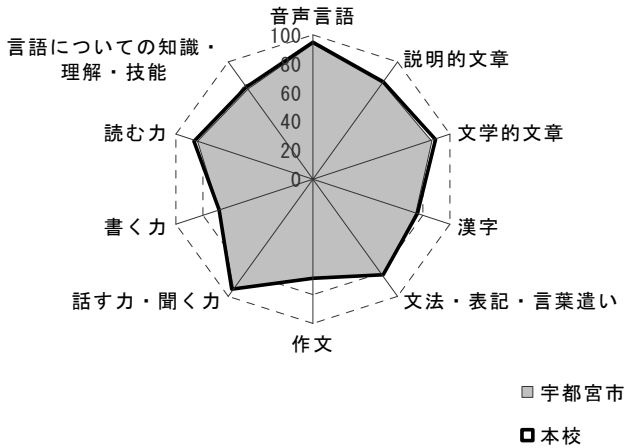
2 学年国語

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率 (宇都宮市と本校の状況)

■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	音声言語	93.3	94.5
	説明的文章	82.2	84.3
	文学的文章	85.8	88.6
	漢字	74.9	76.8
	文法・表記・言葉遣い	82.6	82.8
	作文	68.9	68.6
観点別	話す力・聞く力	93.3	94.5
	書く力	68.9	68.6
	読む力	84.0	86.5
	言語についての知識・理解・技能	77.5	78.8

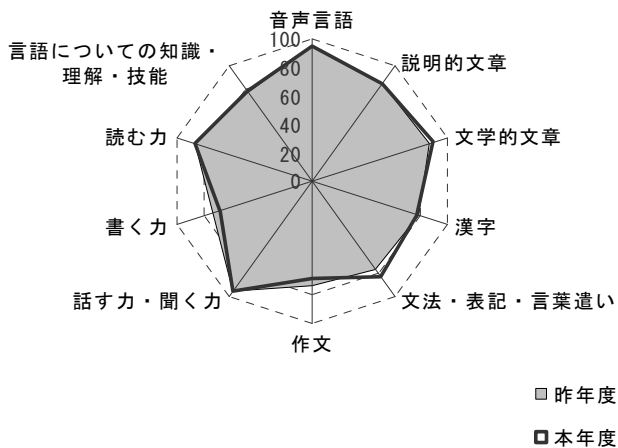


受検人数	宇都宮市	本校
	3624人	190人

(2) 領域別・観点別平均正答率 (平成18年度と平成17年度の状況)

■平均正答率

		本年度	昨年度
領域別	音声言語	94.5	94.4
	説明的文章	84.3	85.0
	文学的文章	88.6	86.7
	漢字	76.8	78.0
	文法・表記・言葉遣い	82.8	75.7
	作文	68.6	73.3
観点別	話す力・聞く力	94.5	94.4
	書く力	68.6	73.3
	読む力	86.5	85.8
	言語についての知識・理解・技能	78.8	77.2



受検人数	本年度	昨年度
	190人	207人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

## 2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
音声言語 (94.5%)	「話すこと・聞くこと」に関する能力が高い。	・聞くことのテストの実施、スピーチやブック・トーク、ポスターセッションなどの聞くこと話すことのような活動を行うことにより、言葉で伝え合うことのできる能力を高めたい。
説明的文章 (84.3%)		・読み取りの力はあるので、さらに読書の範囲を広げるため、普段の読書活動において、論理的な文章に触れる機会を作るような指導をしていきたい。
文学的文章 (88.6%)	昨年度に比べ、伸びている。	・発展的な学習として、朝の読書をはじめとして読書活動を活発に行いたい。
漢字 (76.8%)		・新出漢字の習得はもとより、既習漢字についても、計画的に小テストを行い、漢字の読み書きの定着を図りたい。
文法・表記 言葉遣い (82.8%)	・昨年度に比べ、伸びているが、領域的に苦手意識を持っている生徒も多い。	・文法学習の授業において、理解を深めるとともに、ワークを使って知識の定着を図りたい。また、作文指導の中でも、適切な言葉遣いや正しい表記についての基礎力を身につけさせたい。
作文 (68.6%)	・苦手意識を持っている生徒が多い。	・書くことに慣れていない者が多い。短作文を取り入れ、文の組み立てをきちんとした文を書けるようにさせたい。書き慣れることによって、苦手意識をなくしていきたい。